

# Back Number

本論文は

## 世界経済評論 2020年3/4月号

(2020年3月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

## 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

# 地球と共存する経営



株式会社三菱ケミカルホールディングス会長

小林 喜光

本稿では、私が感じている時代認識とそれに対応する当社の取り組みを紹介させていただきたいと思います。

現在の世界には大きく3つの社会変化の潮流があります。デジタル化とポストグローバル化とソーシャル化です。デジタルネットワークの利便性の拡大に伴い、データを持つもの（一部のプラットフォームや国家）の優位性が顕著となり、分断と格差が広がっています。これに伴い、グローバルな連携が後退し、「自国第一主義」に代表されるポピュリズムが勢いを増しています。その一方で、気候変動や環境破壊など世界共通の問題も深刻化の一途を辿り、人類の100年単位での持続可能性が脅かされています。最近SDGsやESGなどの良識ある社会行動も起こっていますが、強制力はありません。結果として、VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）で表現されるように世界の将来に関する混迷度が高まっています。

こういった状況下で、これまでに合意された人類の知恵ともいえるたくさんの理想や制度がその力を急速に失いつつあります。我々民間企業もこういった混迷の時代に向かっていることを認識し、時価総額のような単純な企業価値を追い求めるだけでなく、無形資産の再評価など新たな企業価値とは何かを模索し、ボーダレスに協働しながら、持続可能な社会の発展に貢献するための施策を実行していかなくては、企業としての存続も危うくなってきます。

私は2011年から、①経済的利益（Management of Economy）、②イノベーション（Management of Technology）、③公益性と社会性（Management of Sustainability）の3軸から生

み出される価値の総和をKAITEKI（心地よさ、Well-beingの意味）価値と呼び、その最大化を目指すことを企業活動の旗印としました。従来のように資本効率や技術開発だけを追求するだけではなく、企業が人、社会、地球といったあらゆるステークホルダーの課題の解決に貢献できるかを数値化し（CO2削減量等）、重要な経営指標の一つとして用いています。また世界と時代が求める将来価値は何なのかそれにどう応えるかを定期的にバックキャストしながら戦略に取り入れ、ポートフォリオの改革を行い、KAITEKI価値の最大化を目指しています。このような取り組みで世の中に送り出した製品が、軽量化・省エネ部材の炭素繊維複合材や自動車向けのリチウムバッテリーの部材、海洋プラスチック問題における生分解性プラスチックです。まだ収益的には厳しい部分もありますが、是非とも花を開かせたい分野です。

また、2020年の4月に米国アリゾナ州立大学とTHE GLOBAL KAITEKI CENTERを設立し、①事業の未来社会における価値の可視化、②サーキュラーエコノミー、③フードロス、④都市化の熱マネジメントと材料開発の4つのテーマで研究を開始し、KAITEKI推進のためのボーダレスな体制も構築していきます。

刻々と変化する世界でどのような価値を求めるべきか、それに伴って社会がどう変革していくのか、モノからコトへの変化の中“新しいコトさし”が必要な時代が来ています。人、社会、地球にどのようにKAITEKIを提供し続けるか、わが社の活動もまだまだ改善すべきところが多く、「地球と共存する経営」に終わりはありません。（こばやし よしみつ）